職場の連繋で抵抗を

定期総会盛会裏に終る

一九五七年度の三鉱労組定期大会は五月二十五日午前九時より、市民館で開催された。甲斐議長より力強い開会宣言が行われ、つづいて宮川組合長より本定期総会がかくも盛大に開催されることを心から喜んでいる次第である。

昨年一年間を振返つてみると、四十三日の闘い直後における現場の実態、経営者の出方は複雑微妙で、職制の権限が大きく職場にのびて来た。

これをはね返すためにはどうするか、単なる一職場の部分的な抵抗では却つて逆効果を来たすことになる。常に各職場十分連携を密にしてガツチリスクラムを組んで大きな抵抗を続けて行く以外にはない。

その根本的基礎をなすものは四十三日の闘いに対する理解、労働者階級としての意識を徹底的に体得し、あらゆる職場の闘いの中から抵抗力を強めて行くことであつた。

その努力が着々効を奏し逐次闘争力が盛上つて前進して来ていると確信している。

しかしまだまだ十分とは云えない。口先だけの抵抗ではどうにもならない。

反動勢力は、総評は大きな怪物となつたと云つて今後、弾圧を加える方針を決めた。国鉄をはじめとする公労協に対して一千名に及ぶ大量処分を政府自ら発表した。

国鉄の問題は、われわれの問題として闘いを組まねばならぬ。この闘いに敗れたならば、労働組合というものはなくなつてしまうのではないか。

今後益々重圧がかかつて来ることを覚悟して、組合員一人一人が意思を強固にし学習活動を活発にやつて、職場の諸闘争を完全に闘いぬいてこそ大きな前進になるということを理解して、立派な行動方針を打ちたてて頂くことを心から希望する。

つづいて川口大地評会長はじめ、革新、政治局、岩田屋、産業セメン労組代表のメッセージがあつて一般経過、決算、監査報告を認め一九五七年度行動方針の説明、討論があつて、これを原案通り決定し、午後四時終了した。

1957
三池炭鉱労働組合
定期総会

市民会館で盛会に開いた定期総会

気安く話合える

ソ同盟使節団を囲んで

アジア連帯会議の招きによりソ同盟親善使節団のアンドウサロム・デホテイ氏（タジツク共和国・詩人）ワシリ・ワシリエヴィツチ・コウシエンコ氏（科学アカデミー会員、東洋学者）バルザン・ブリトリコヴァ女史（カザツク共和国厚生大臣）ら一行三名は二十三日大牟田に訪れた。細谷市長の案内で市内見物を行つた後、市長室で午後三時半から二時間にわたつて関係代表者約二十名が出席して懇談会を行つた。三鉱労組からは宮川組合長、主婦会から河野会長が出席した。

懇談会は市長司会で通訳を通してではあつたが、ソ同盟の代表者たちと和やかな雰囲気の中で終始行われた。

まづ自己紹介をやつたのち、代表団の中で異色ある女性の厚生大臣ブリトリコヴァ女史はまつさきに質問した。

平和を望む日本婦人

——私たちが帰国したなら必ず日本の婦人たちはどういうことを現在考え、何を希望しているかと質問されると思うので婦人代表四名の方から意見を伺いたい

これに対し母親と女教師の会、三鉱主婦会、市婦人会、農協婦人部代表の四名の方がそれぞれ意見を述べたが、その内容は大体一致していた。

—日本の婦人は現在、戦争でコリコリしているので戦争は絶対反対であり、とくに人類の破滅をきたす恐れのある原水爆の実験も、製造も禁止してもらいたい あくまでも平和を守り、明るい生活をするために子供を立派に育てたい。これが願いである。

など語つていたが、各代表からもそれぞれ質問をしていた。とくにソ同盟での社会補償制度の現状、シベリヤ開発の問題、日ソ貿易の問題、ソ同盟の文化の実態について集注された。

日ソ協力したい

まず社会補償制度については……

—世界中で例をみないほど充実している。とくに老令者年金と不具廃疾者年金、母子家族の補償これらは完全に実施しているので少しも心配はいらない。

つぎにシベリヤ開発については…

—特別にシベリヤ開発をするという印象を日本の方は受けているかも知れませんが、既にシベリヤは相当開発されている。その上に今次五カ年計画における開発はソ同盟の開発の一環であつて特別なものではない。それで開発に力を入れるのは勿論だがそれにはソ連だけの力によつてできるが、とくに日本と貿易をさかんにしてソ連の建設に必要とする資材を日本から購入し、日本で必要とする木材、石炭を安く売り日ソ貿易についてしつかりした具体的な計画もあるし、これは中央で十分話し合つて帰りたいと考へている。

駅頭で挨拶をする(1)デホテイ氏(2)コウシエンコ氏(3)ブリトリコヴァ女史(4)田中代議士

除かれた個人崇拝

さらにスターリン批判以後の映画演劇についてはどう変化したかの質問に対しては、スターリン批判についての基本的な考え方の説明がありつぎのように答えている。

—批判は確に行つた。スターリンの行つたのが全部悪いのではなく、偉大な指導者であつたと考えているが、ただ個人崇拝を指導の中心にしたということは間違つていると自個批判したのでこの点改めねばならぬということだつた。従つて、それ以後若干変化していることは認めねばならないだろう。ソ連の映画、演劇は個人崇拝をあくまで排除しなければならない。人民のための映画、演芸をつくつている日本政府は外貨の割当で洋画の輸入をやつているが、ソ連のが入つていない。国交も回復したのだし映画ももつとみて頂き、文化交流をますます図つて行きたい。

以上が大体主な懇談の内容であるが、とくに会談中感じられたことは非常におおらかであるという印象を受けた。

インターで見送る

ソ同盟の人たちはもつと固苦しく理くつ張つているのではなかろうかという先入感でいた人もあつたようだが、会つてみると気安く話ができるという印象を出席した一同が感じたことは事実であつた。

翌二十四日は午前九時半の準急で門司に向つて出発したが、中央委員全員見送り、インターナショナルを合唱しつつ使節団を見送つた代表団は感激しつつ大牟田に左様ならして行つた。

希望探訪

炭鉱組合に潜水夫

特異な職場港務所

三鉱労組は炭鉱の労働組合であるところが組合へくる外部のお客さんなどは、組合員の職種のなかに船長さんや、潜水夫などのいるのにビツクリされることが再三ある。しかし事情を知ればハハアンと納得する。港務所というおよそ特殊な支部が存在するのも炭鉱としては珍しいケースであろう。

「お願いします」と船渠を訪ねランチにのせてもらつた。

ポツポツポツポツとエンジンは快い響きを立てて波しぶきを残しながら初夏の海上を波を立てて進んで行く。内港には数日前まで硫安積みに停泊していたアメリカ船が出航した後だけに、残つた船は小さく見えて、何となくガラン洞とした感じだ。

機関手さんがちようど自動車のハンドルみたいな形の操舵を握つて運転される。こんな職場ならなんと毎日気持がよいだろうと思つていたら、さにあらずこの船の職場にはこの職場の悩みや辛さがあり、ハタから見るように楽ではないとのことだ。やつぱり人間ボンノウの悲しさ、よその職場がよくみえて仕方がない。

港務所の本館事務所や左側の港務電所がスイスイと後へ去つて行く。外港に出ると大きな船が岸壁に横ずけにされて石炭積込みをやつている。先年嵐で倒れて尊い犠牲者を出した浮上櫓が新しい設計をされて、ペンキの色も彩かに岸壁に姿をみせている。

左手をみると四山がクツキリと姿をあらわした。船着き場には島原行きの渡海船が出航時刻を待つてとまつている。空はあくまでも澄んで、五月の日射しではもう汗ばむような皮膚を海風が冷やりと心よくなでて行く気持のよいこと、この上もない

この港務所の現場の広いのには全く驚いてしまう。陸には路線をかかえて各駅には駅長さんがおり、その間に信号手や踏切番手さんたちもいる。海上のことは専ら船渠課でもつている。水門の横手にある現場の人たちの控室の事務所には港に入つてくる船を監視するのに使用するゴツツイ双眼鏡があり、これでみるわけだ。

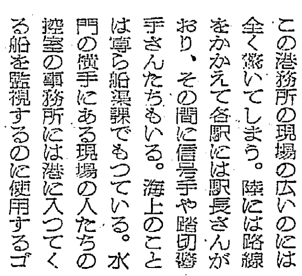
船長さんや沖仲士さんもおり職組にはいるパイロツトさんもここにはいる。

船積手といえば積荷にきた船舶に硫安、塩等の荷を積込む人たちだ。このほか潜水夫さんもいるというありさまで、採炭や掘進などの人たちと同じく組合員である。

ここの職場は港をもつているので、春や秋には小、中学生たちが港外施設の見学をしたり、主婦の人たちも分会から見学にきている。

また、主婦たちの中には夫の職場はみたが、炭鉱の組合員であるので、炭鉱というものをぜひみたいという声が高まり、これまでに数回、坑内見学を行つたということもあるほどだ。

とにかく、三鉱の中でも一般に知られぬ職種の人たちが集つているのはここの職場の変つたところである



【写真はあさひ丸】

"人類への死刑宣告"

ク島水爆実験と国際世論

世界の世論を無視した英国の水爆実験は、全世界に大きな憤激と関心を引起している。とくに本場の英国内ではそれが一そうはげしかつたといわれている。

以下各主要地での反響をみてみよう。

英本国 では実験が発表された十六日早くも核兵器実験禁止全国評議会が「人類に対する死刑宣告」とはげしい抗議声明を出し国会ではゲイツケル労働党首が「実験の残余の部分を中止する」緊急動議を提出した。おりからロンドンで年次大会を開いていたイングランドとウエールズの宗教団体も「人類に脅威を与えている」と声明した。また全国婦人会議は首相に「神は許しても、だが母親たちは許さない」と抗議電報をうつた。

米國 米政府当局は最初実験成功をいわゆる「自由世界」の防衛力増加として歓迎する態度をろこつに示したようだが、ワシントンからの来電を総合すると、世界の世論がこれで一段と高まることを予測し、恐れをいだいている。例えばAP電はつぎのように論じている。「いまや米当局もひそかに核爆発実験をめぐる情勢は不幸なものであり、世界諸国の世論を前にして積極的に米英の政策を主張しつづけることはむずかしいことを認めている」。

インド・セイロン ネール首相は「このままでいけば核爆発実験は最後にはとてつもない規模で世界に災害をおよぼすだろう」と下院で警告にたち、セイロンのバンダラナイケ首相は「きわめて遺憾だという以外にない」と語つている。

ドイツ・イタリア 西ドイツの社会民主党は「遺憾の意を表明する」声明をだし、イタリア社会党は下院に「全般的軍縮協定への第一歩として原水爆禁止を訴える」決議案を提出した。

インドネシア インドネシアの有力紙である「レパブリツク」紙は実験に抗議したその社説で「英政府の口実はばかげたものだ」とし、アメリカのネバダの実験と原子兵器の蓄積、NATO諸国と蒋介石グループへの誘導弾提供を非難し、「この犯罪的行為をやめさせるために闘おう」とすべての平和愛好者に訴えている。

職場にもいい分が

▲みんなが云いたい事をみんなが聞くべきだ▲一口が一生を明るくする▲天性は苦労の中から

図書館に一言

図書館に行つて思うことは、掲示板に新刊書借出の当日いつ行つても新書はなく、旧書ばかりいつも並んでいることです。これをもつていかに利用者が多いかと喜んでいる者です。

ところで新書借出の件ですが、百何十冊というぼう大な小説類ばかり並んで、なんで専門書がないのだろうと不思議に思つていますが、一人考えだろうと思いますが、新陳代謝のはげしい小説類が値段も安く、収支の面で採算がとれるし、専門書は値段も高く新陳代謝が低く採算が取れないせいだろうと思います。

労働のはげしいあいまなど軽い小説など読んでつかれをなおし、気分を転換するにはもつてこいと思いますが、たとえば暇が多すぎる日曜とか公私傷で長く休業している時などやはり小説などではあきたらず、軽い何かの専門書など読みたいと思うときもあります。

そのようなとき、また文化生活の理想を高める意味からもぜひ専門書の二、三冊ぐらい購入してほしいと思います。

図書館に行つていつも同じような、また難解な古書など並んでいてはうんざりします。

参考までに一言。

（三川内機　T生）

【写真は三川図書館の貸出風景】

分院の良識求む

先日、私は発作的に心臓病にかかり、夜八時ごろ小浜の電化分院に往診をたのんだところ、当直先生曰く「保険証なしではできぬ」と断られた。なるほど、理くつはそうでも子供が病気のため、天領病院内科に保険証を預けていたため、こういうことになつたのです

このようなことは他にもあることでしよう故小浜分院の良識を求む。

（三川　憤慨生）

会社の家計簿

私は会社からの家計簿を頼まれ組合のために逆にこれを利用せんとして頑張つて書いているが、現場や地域の方から注意を受けています。この家計簿を、また会社は書き替えるとのことでビツクリしています。組合もこれを取り上げ、会社の家計簿を書いている人に注意して下さい。私も五月一ぱいでもう書きません。

（三川　常一機械生）